

学園祭協賛行事 フォーラム 学生と図書館

「はんなり、着物文化を世界に発信」

昨年11月2日（月）に本学図書館で学園祭協賛行事の一環として、フォーラム 学生と図書館「はんなり、着物文化を世界に発信」を本学図書館第2閲覧室で開催いたしました。その時の基調講演と6組の発表の要旨をもとに図書館フォーラムを振り返ります。

<基調講演>

「はんなり、着物文化を世界に発信」



坪倉 澄子 先生
(本学『京都文化論』特別講師)

着物は世界に誇る民族衣装です。着物では、前から見た姿だけでなく、後ろ姿の美しさも大変重要視しています。また着物における色や柄、染めや織りの技術は、長い時間をかけて日本の風土と四季の移り変わりによって育まれてきた日本独自の美意識なのです。着物は、8枚の布（両身頃、両袖、両衿、衿、共衿など）で出来ています。全て直線縫いでコンパクトにたためます。

着物にもTPOがあり、結婚式には、黒留袖や色留袖、振袖、パーティーには訪問着や付下げを着て、またちょっとしたお出かけには付下げや小紋を、普段着には、紬や御召し、ウールなどを着ます。季節によって袷（10月から5月）や単衣（6月、9月）、薄物（7月、8月）などの衣替えがあります。

また着物は、リサイクルやリフォームが出来ます。昔から着古した浴衣などは、赤ちゃんのおしめによく使っていました。染め変えもできます。古くなったものは、古裂として小物やカバンやパッチワークなどに使えますし、細く裂いて編んだり、織ったりしてショールなどにリフォームすることもできます。帯をテーブルクロスにリフォームすることもできます。このように捨てるのがもったいないという精神が着物にはあり、環境に優しい衣服であると言えます。

着物を着ると、洋服を着ているときと違って、動作がしとやかになります。皆さん、着物や着物文化を知ることによって、着物の素晴らしさ、日本文化の素晴らしさを再確認して下さい。そして着物を実際に着て、日本文化を伝える親善大使として世界へはばたいて、ご活躍されますことを大いに期待しております。

